

タジキスタン投資プレゼンテーション

はじめに

去る7月24日、東京の如水会館において当会主催の「タジキスタン投資プレゼンテーション」が開催された。そこで本速報ではこのプレゼンテーションの様子をご紹介します。

ロシアNIS貿易会では7月22～27日の日程でタジキスタンの玄武岩繊維およびバイオ肥料製造などの企業グループ3社を日本へ招聘し、日本企業などとのビジネスマッチングを実施した。本プレゼンテーションはその一環として開催された。

これら3社が来日した目的は、潤沢な水資源を利用した水力発電、豊富な埋蔵量の鉱物資源採掘、優れた気候を利用した農業などが経済の中心産業となっているタジキスタンにおいて、よりイノベティブな産業を国内市場に確立するため、日本において潜在的なパートナーを見つけるためである。

また、プレゼンテーションには駐日タジキスタン大使館からボボソダ大使が参加され、タジキスタンの経済状況全般について発表を行った。

基調講演「タジキスタン経済の現状と展望」

駐日タジキスタン大使 G.ボボソダ

タジキスタンという国は四方をウズベキスタン、キルギスタン、アフガニスタン、中国に囲まれた内陸国であり、古くはシルクロードの時代から国同士を結ぶ役割を担ってきた。そのため、タジキスタンと日本の関係はそのころまで遡ることができる。

タジキスタンは1991年にソ連から独立を果たし、1997年から市場経済への移行という形で大々的に経済構造改革が行われてきた。近年は年率6～7%でGDPが増加しており、順調に経済が成長しているといえる。

タジキスタンのGDPに占める鉱工業の割合は20～22%であり、主な産業はアルミニウムの製造と加工、食品産業、軽工業、様々な天然資源の採掘である。ただし、同産業の抱える問題としては、今日利用されている機械設備の老朽化が著しいことや、低い生産性・品質、ウラン濃縮や航空宇宙機器の部品といったソ連時代の軍産企業の市場の欠如などが挙げられる。これら問題の解決のためにも新技術・設備の導入、新製品の開発のための支援などを行っていくことが欠かせない。

タジキスタンのGDPに占める農業の割合は20～23%、かつ、総労働人口のうち65%が農業従事者となっており、農業はタジキスタンの重要な産業となっている。タジキスタンで農業が盛んな理由は、優れた自然・気候条件によって作物の通年栽培が可能なことや作物の食味が優れているためであ

る。一方、タジキスタンの農業が抱える問題としては収穫した作物の貯蔵、加工、包装、輸送のためのインフラが整っていないために多くの収穫物が輸送中に損失してしまうことである。

タジキスタンでは主力産業である電力産業や軽工業などに対して国外投資家からの投資を誘致するために税制優遇などが行われている。例えば、水力発電所建設のプロジェクトの発注者とその請負業者に対しては付加価値税や道路税などいくつかの課税が免除され、綿一貫加工を行う企業に対しては課税が免除されるなどである。加えて、国内には4カ所の自由経済圏を設置するなどタジキスタンの投資環境改善に向けて政府主導で様々な取り組みを行っている。これらタジキスタンにおける国外投資の誘致に関する情報は大使館からも情報公開しているので、是非照会していただきたい。

トチバルト社プレゼンテーション

投資開発ディレクター Kh.アブドゥロエフ

トチバルト社は建設、機械製造、農業などの分野にイノベーション、新技術を導入することを目的に活動を行っている研究産業共同体である。今回のプレゼンテーションでは現在プロジェクトが進められている玄武岩連続繊維(以下、BCF)の製造とそれを利用した製品の製造について紹介する。

BCFは玄武岩を1,000~1,600度の高温で溶解することで製造する。国土の93%が山岳地帯であるタジキスタンにとって、その原料となる玄武岩は安価かつ容易に入手ができる原料である。実際に行った調査でもタジキスタン国内における玄武岩の確認埋蔵量は数千万tになるという結果が出ている。

本プロジェクトにおいてBCFおよびその製品の生産工場は、ドゥシャンベ市内にある以前機械製造を行っていた工場を利用する。既存の設備を利用するため、すでにすべてのユーティリティが整っており、鉄道インフラへのアクセスも確保されている。加えて、原料となる玄武岩はドゥシャンベ市の郊外から産出する良質な玄武岩を利用する予定となっており、原料、エネルギー、労働力供給の観点からも最適の立地条件になる。

国内において金属製品の製造が行われていないタジキスタンはほぼすべてをロシア、ウクライナ、トルコ、中国といった国外からの輸入に依存している。また、現在、タジキスタンは建設ラッシュであり、国内の金属製品に対する需要は急激に増加している。2008年、約8億ドルであった金属製品の輸入額は、2014年上半期、すでに約15億3,000万ドルにまで拡大した。そのような理由からタジキスタンでは金属の代替素材の開発研究が進められており、鉄よりも軽く強度があるBCFに注目が集まっている。加えて、BCFは酸・アルカリへの耐性、高い腐食耐性、不燃性、耐火性を有するため建材としての利用も検討されている。さらに他の素材との両立性が高いためアスファルトなどの補強材としても優れている。

BCF製造業は、タジキスタン国内に競合他社がおらず、国内に新しい産業を興し、その育成を図るという意味においても非常に戦略的な分野となりうる。プロジェクトでは、まず、12,500tの生産能力を

有する工場を建設し、国内市場向けの事業展開を行っていく予定である。しかし隣国にBCF製造業で競合する他社が存在しないことを考慮すると、今後はさらに生産能力を拡大し、国外市場に向けて輸出することも考えている。

ホバル・ビオテック社プレゼンテーション

プロジェクト部長 Z.ラヒモヴァ

ホバル・ビオテック社はタジキスタン経済における主要産業である農業にイノベーション技術を導入することを主な活動のひとつとしている。今回は現在進められている複合マイクロ肥料(以下、CMF)の生産工場をタジキスタンに建設するプロジェクトについて紹介する。

世界中でマイクロバイオ肥料は利用されているが、われわれの開発したCMFには様々なバクテリアが含まれており、それらバクテリアの働きによって空気中の窒素をそのまま吸収することや、土壌中の無機栄養素を最大限活用することができる点に特徴がある。リンを例にとってみると、通常、リン化合物を肥料として撒いたとしても、そのうちの一定量は土壌に吸収されてしまい植物が利用することはできない。しかしCMFに含まれているバクテリアの働きによって土壌に吸収してしまったリン化合物を再び植物にとって利用できる形に分解することができるのである。われわれの実験ではCMFを利用することで、土壌1kgあたりから19mgのリンを分解、復活させることができた。さらにCMFを使用してから1年後には、使用する無機肥料の量を従来比で90%も削減することができ、さらにそれから3~4年後には無機肥料の使用量をほぼ無しにすることに成功したのである。また、CMFを綿栽培に利用した際には、綿の収穫量を30%程度増加させることに成功している。

今日までCMFの実験および検査はタジキスタン以外にもロシア、ウクライナ、ウズベキスタンで行ってきたが、すべて肯定的な結果であった。そして2003年にロシア、カザフスタン、トルクメニスタンなど10カ国が所属しているユーラシア特許協会において特許を取得している。

現在、ホバル・ビオテックではこのCMFの生産工場を建設するプロジェクトを進めている。同工場では年間2,400tのCMFを生産する能力を獲得することを目指している。このCMF2,400tというのは灌漑農地10万haをカバーできる量となる。その後は生産能力を拡充し、国外への輸出も視野に入れていきたいと考えている。

MKF インベスト社プレゼンテーション

社長 Sh.ラヒモヴァ

MKFインベスト社は2003年の設立から今日に至るまでの11年間、タジキスタンで高速インターネットや電話サービスの提供といった通信事業を行っている。

今日のタジキスタンの通信状況をみてみると、国内におけるインターネット普及率が13%とかなり低い水準にあり、また、光通信インフラが未整備であるため、地域によっては通信費が非常に高くなっている。一方で、近年はLTEなどの新世代の通信技術が急速に発展してきており、また、国内市場にも主導的な企業が存在していないなど、今後、事業を拡大していく上での優位性もある。

そのため、テレマティクスサービス、国際通信サービス、移動体通信サービス、ケーブルTVおよびIPTVサービスの提供などが今後のタジキスタンの通信市場において有望な事業となってくると考えられる。そのためMKFインベスト社では戦略的プログラムとして最大2億分／月の通信容量を有する国際トラフィック終端ノードの構築、光通信インフラの構築、LTE通信網の構築、ケーブルTVおよびIPTV事業の設立などを戦略的プロジェクトとし、すでにこれら事業を行うのに必要となるライセンスを取得している。加えて、タジキスタンは地政学的に周囲を中国、キルギスなどに囲まれており、それら国々とのトランジットトラフィック事業も大きな可能性を秘めているといえる。

キャピタル・プラス社プレゼンテーション

副社長 Sh.ラヒモヴァ

マイクロクレジット・預金会社のキャピタル・プラスは10年以上タジキスタンにおいて金融サービスを提供し続けており、著しい成長を遂げつつある企業である。主な事業は貸付、外貨取引、SWIFT取引、預金、中小企業育成や農業ビジネス向けの融資、消費者クレジットである。

現在、我々は国外のパートナーとの連携強化を重視しており、様々な国際プロジェクトの実現に取り組んでいる。たとえば、ロシアの銀行Novikom Bankとの間にスポット取引に関わる協定の締結したこと、グルジアのパートナーと共同で送金システム「ユニストリーム」の構築を進めていること、また、インドのソフトウェア会社Virmatiとの間でタジキスタンには前例がない高・多機能バンキングシステムの導入計画が進んでいることが挙げられる。

さらなる当行の成長戦略は中小企業および個人企業家の育成支援を積極化することである。今回、プレゼンを行ったトチバルトやホバル・ビオテックといった国内産業の活性化を目指す企業の後押しを通して、タジキスタンの経済全体の改革を行っていきたいと考えている。そして長期的には中小企業向けバンキングサービスにおいて国内市場でトップになることを目指している。しかし、これを実現するためにも十分な資金調達が不可欠であり、国内外のパートナーを現在探している。

※本稿はロシアNIS経済速報2014年8月5日号にも掲載されています。